

福祉教育プログラム 実施事例

福祉教育は、授業での話だけでは深い理解にはつながりません。学習だけでなく、体験や交流を交えて実施するところに意味があります。日の出町は福祉施設がたくさんあります。福祉施設と連携して福祉教育プログラムについて、日の出町社会福祉協議会でコーディネートした事例を紹介いたします。

1. 学習対象者 平井小学校4年 2クラス 62名

2. プログラム内容

No.	内容	詳細
1	障がい者理解のお話	片足義足でギターと歌でボランティア活動をしているマイキーさんによる歌とお話
2	障がい者体験 車椅子体験	車椅子体験 小学校体育館で車椅子教室
3	障がい者と交流	日の出舎利用者さんと一緒にアート作品の作成 場所は栄光の杜駐車場
4	障がい者と交流	3で作成したアート作品の納品と、触れ合った方に喜んでもらえる内容を生徒さんが企画

3. 効果・実績

■お話

障がいを持つボランティア(マイキーさん)に歌と話で、障がいについて理解を深めてもらう取り組み。障がい者本人から、普段の生活などを話してもらい、歌と話で飽きることなく交流。義足を外してみんなに触れてもらうなど、非常に和やかで生徒の皆さんに障がいについて考えるきっかけを持ってもらえた。



■車椅子体験

特別養護老人ホーム 栄光の杜職員に手伝ってもらい、福祉のプロによる車椅子体験を実施。



■障がい者との交流

障がい者施設 日の出舎の利用者さんと一緒にアート作品の作成。利用者さんとチーム名を決め、最終的なアート作品のイメージを相談。思った以上に生徒さん利用者さんの交流が生まれました。木片を生徒さんが持ち、利用者さんが色を塗るなど、相手の立場に立って作業が進められていた。

生徒さんの中には、将来障がい者施設で働きたいとの思いを語る人もいました。



■障がい者との交流（生徒さんが企画）

作成したアート作品を学校で仕上げて施設へ納品。交流のお礼に歌とリコーダー演奏のプレゼント。



生徒さんが作成した手形を栄光の杜で展示

全体を通して、単発ではないプログラムを実施することで理解は非常に深くなり効果的です。社会福祉協議会では、さまざまなニーズに合わせてプログラムを作成して提案いたします。生徒さんに何を学んでもらいたいか、また、職員の研修プログラムとしてもご相談に乗らせていただきます。